52　P午後

◎　指示があるまで開かないこと。

（平成29年2月26日　14時20分～17時00分）

注意事項(一般受験者)

1. 試験問題の数は100問で解答時間は正味2時間40分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題には1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。

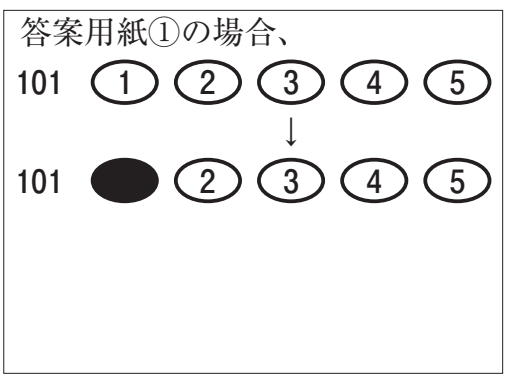
(例1) **101** 破傷風菌の純粋培養に成功したのは誰か。

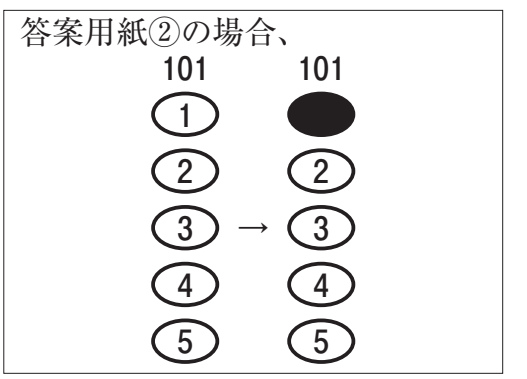
1. 北里柴三郎
2. 志賀潔
3. 杉田玄白
4. 野口英世
5. 前野良沢

(例2) **102** 解体新書を完成させたのは誰か。**2つ選べ**。

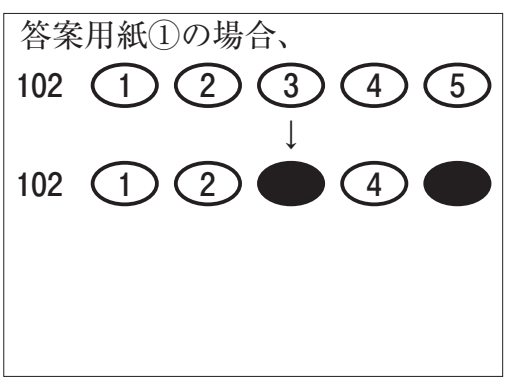
1. 北里柴三郎
2. 志賀潔
3. 杉田玄白
4. 野口英世
5. 前野良沢

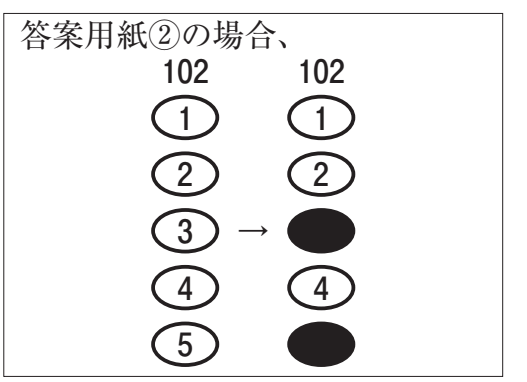
(例1)の正解は「1」であるから答案用紙の ① をマークすればよい。





(例2)の正解は「3」と「5」であるから答案用紙の ③ と ⑤ をマークすればよい。





(2) ア. (例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

イ. (例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

注意事項(弱視者)

1. 試験問題の数は100問で解答時間は正味2時間40分である。

2. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題には1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。

(例1) **101** 破傷風菌の純粋培養に成功したのは誰か。

1. 北里柴三郎
2. 志賀潔
3. 杉田玄白
4. 野口英世
5. 前野良沢

(例2) **102** 解体新書を完成させたのは誰か。**2つ選べ。**

1. 北里柴三郎
2. 志賀潔
3. 杉田玄白
4. 野口英世
5. 前野良沢

(例1)の正解は「1」であるから答案用紙の

問題番号	答
101	

の「答」の欄に

問題番号	答
101	1

と記入すればよい。

(例2)の正解は「3」と「5」であるから答案用紙の

問題番号	答
102	

の「答」の欄に

問題番号	答
102	3　5

と記入すればよい。

答えの数字は、はっきりと記入すること。不明瞭なものは解答したことにならないので注意すること。

(2) ア.(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

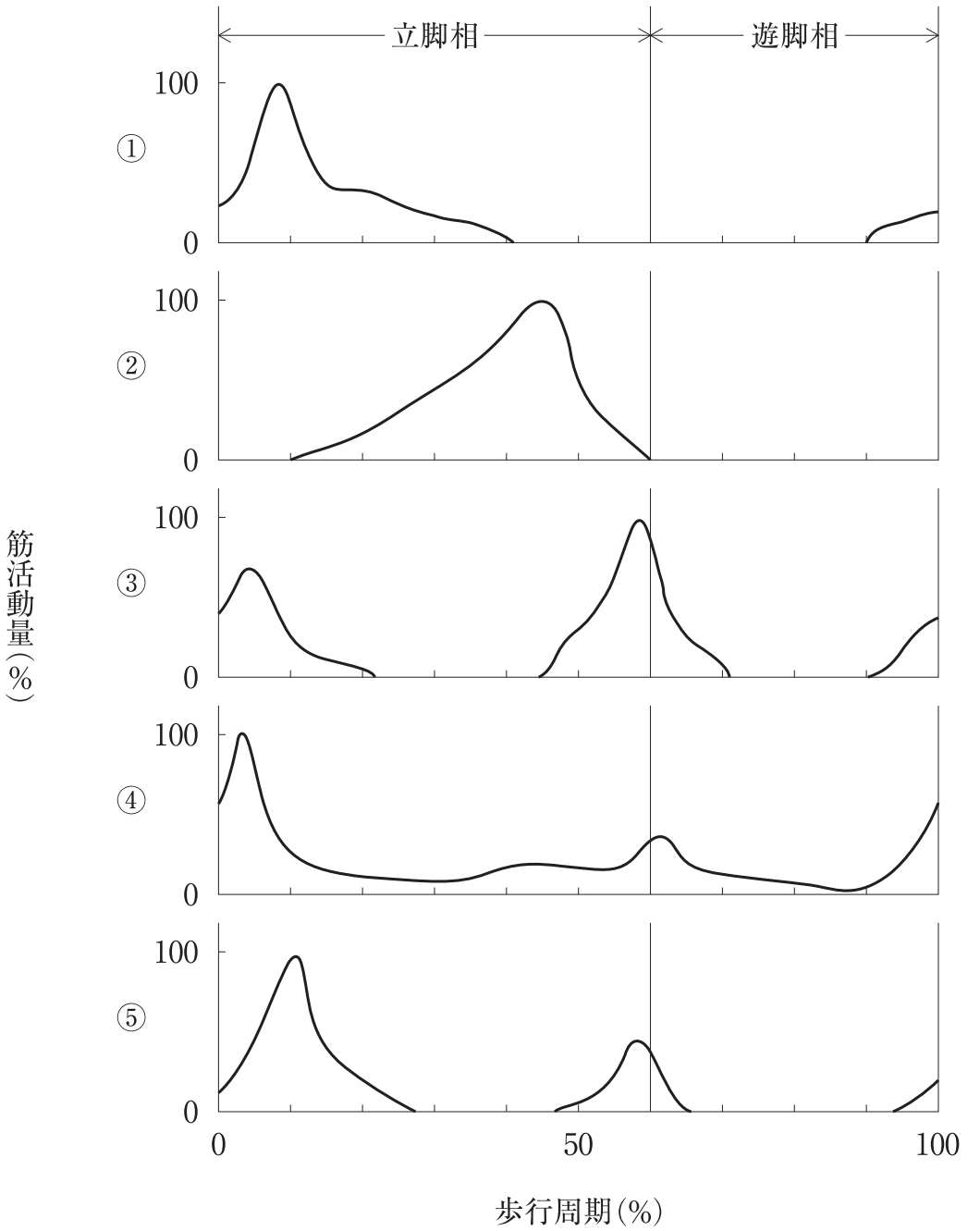
イ.(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(3) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

◎ 指示があるまで開かないこと。

1　健常成人の平地歩行時の下肢筋活動を図に示す。

下腿三頭筋の筋活動に相当するのはどれか。



1.　①

2.　②

3.　③

4.　④

5.　⑤

2　図１の検査で異常がみられた場合、図２の脊髄横断面の模式図において損傷が考えられる部位はどれか。

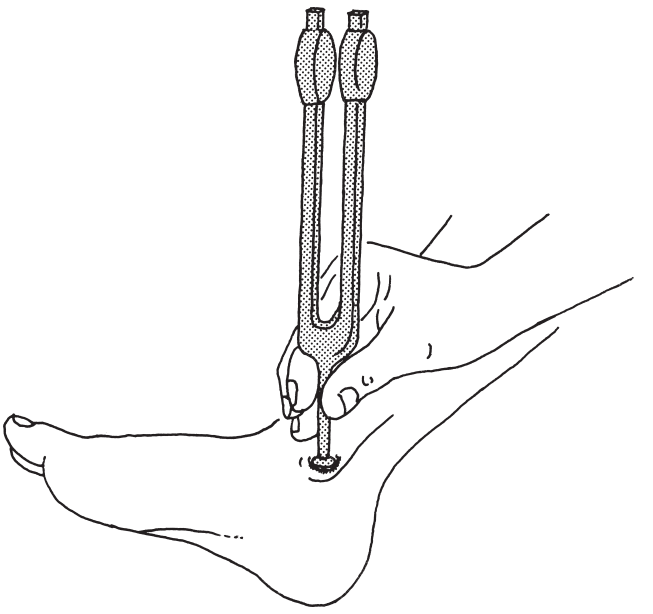


図　1

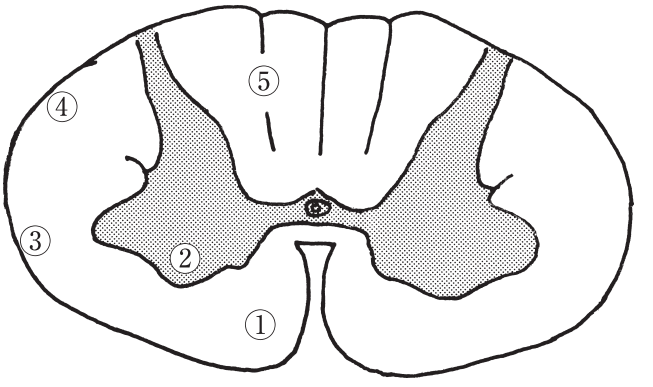


図　2

1.　①

2.　②

3.　③

4.　④

5.　⑤

3　患者の股関節部エックス線写真(**別冊**No. **1**)を別に示す。大腿骨および下腿骨に骨折はなく、膝関節の変形や可動域制限はない。右大腿長 44.0 cm、両側の下腿長 35.5 cm、右下肢の棘果長 83.0 cm であった。

左下肢の肢長検査で正しいのはどれか。

	棘果長	転子果長
1.	81.0 cm	79.5 cm
2.	81.0 cm	78.5 cm
3.	81.0 cm	77.5 cm
4.	83.0 cm	79.5 cm
5.	83.0 cm	77.5 cm

別　冊

No. **1**

4　右股関節の可動域を表に示す。

快適速度で直線路を歩行した場合に予想される特徴はどれか。

部　位	運動方向	他動可動域
股(右)	屈　曲	50 度
	伸　展	15 度
	外　転	35 度
	内　転	−10 度

1.　歩隔の増加

2.　右の歩幅の減少

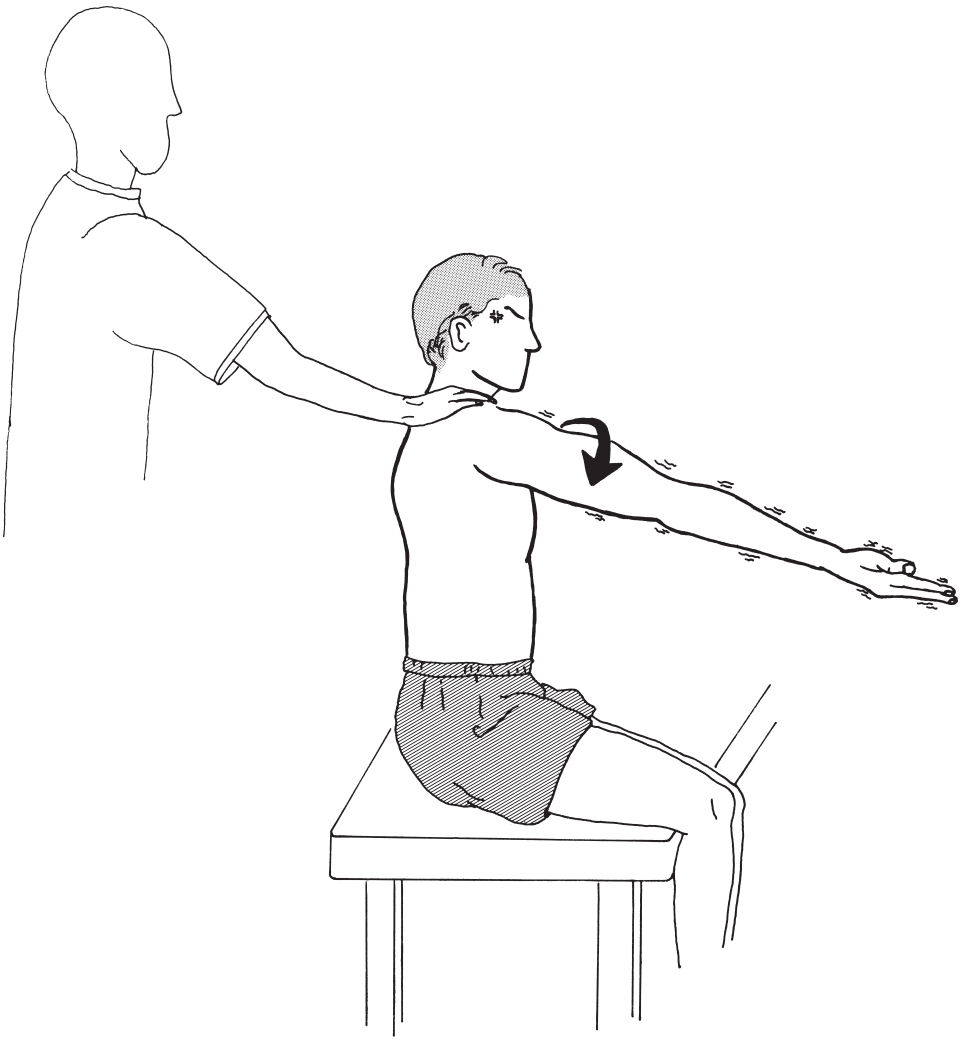
3.　左の遊脚時間の延長

4.　右立脚時の体幹の左側屈

5.　左立脚時の左股関節外転角度の増加

5　Daniels らの徒手筋力テストで肩関節屈曲（前方挙上）の段階 3 の測定をする際、図のような代償がみられた。

代償動作を生じさせている筋はどれか。



↓ 対象者の運動方向

1.　回外筋
2.　上腕二頭筋
3.　前鋸筋
4.　肩甲下筋
5.　広背筋

6　義肢の写真(**別冊**No. **2**)を別に示す。

使われている部品はどれか。

1.　吸着式ソケット

2.　ターンテーブル

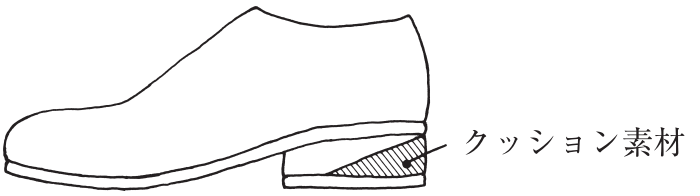
3.　多節リンク膝

4.　トルク吸収装置

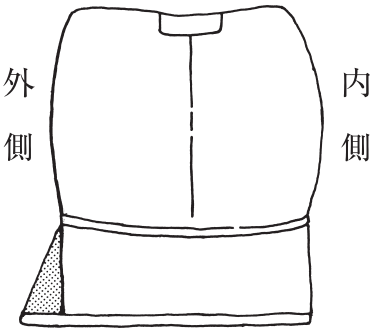
5.　ドリンガー足部

別　冊
No. **2**

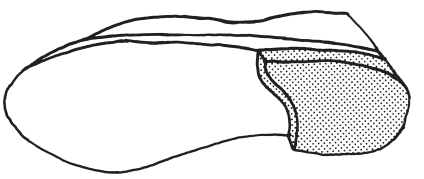
7　病態と図に示す靴の補正との組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**



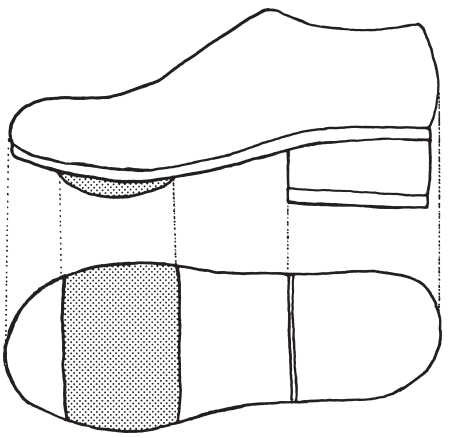
①



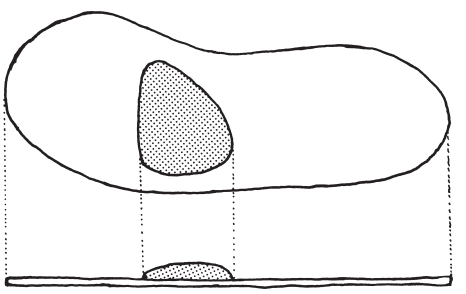
②



③



④



中　敷

⑤

1.　踵骨骨棘 ―――― ①

2.　外反扁平足 ―――― ②

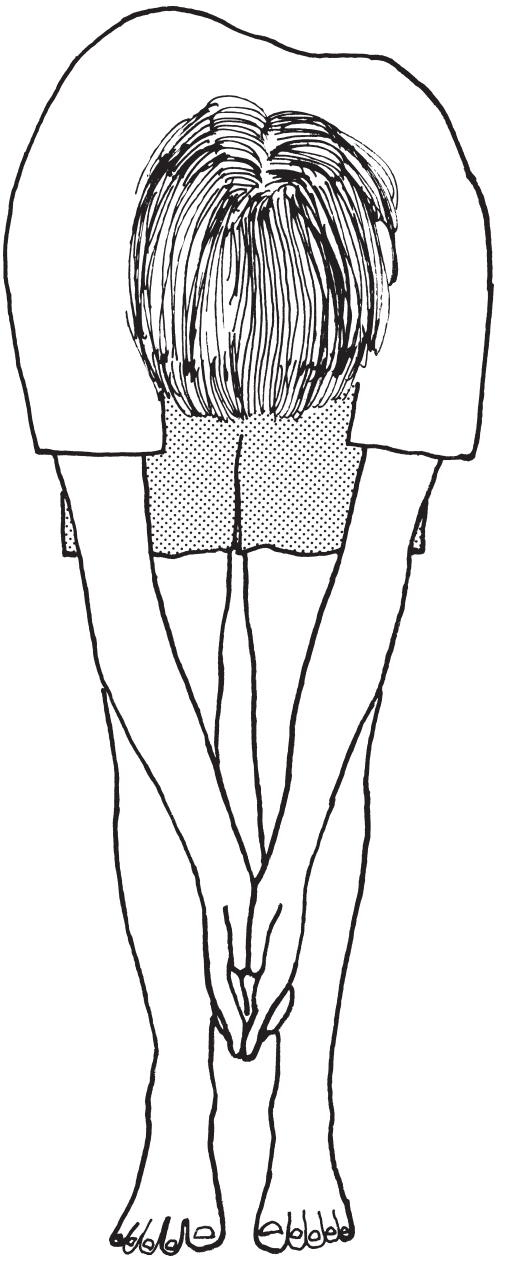
3.　外反膝 ―――― ③

4.　内反足 ―――― ④

5.　槌　指 ―――― ⑤

8　14 歳の女子。第 5 胸椎を頂椎とする側弯症。Cobb 角は 18 度である。体幹前屈時の様子を図に示す。

正しいのはどれか。



1.　右凸の側弯である。

2.　手術療法の適応である。

3.　側弯体操で矯正可能である。

4.　Boston 型装具の適応である。

5.　第 5 胸椎の棘突起は凸側へ回旋している。

9　60 歳の男性。右利き。脳梗塞を発症し、回復期リハビリテーション病棟に入院中である。食事時に右手でスプーンの柄を握りこんでしまい、うまくスプーン操作ができず、介助が必要になることが多いが、少しずつ食事動作が円滑にできる場面が増えてきている。頭部 MRI(**別冊**No. **3**)を別に示す。

この食事動作の病態として考えられるのはどれか。

1.　観念失行
2.　視覚性失認
3.　運動維持困難
4.　右上肢運動麻痺
5.　右上肢深部覚障害

別　冊

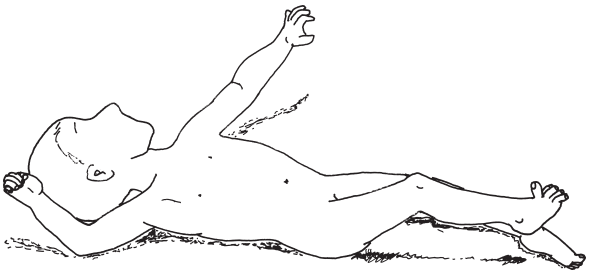
No. **3**

10　10 歳の男児。Duchenne 型筋ジストロフィー。独歩不可能で、屋外は車椅子で、室内では四つ這い移動が可能。上肢に拘縮はなく、座位で上肢の使用が可能である。

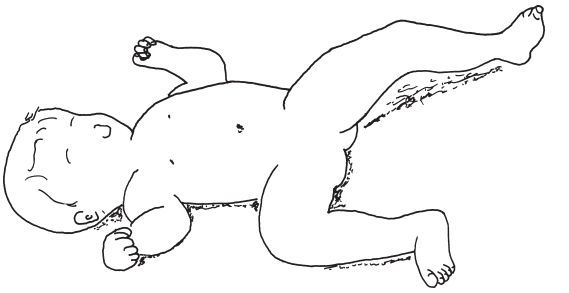
この時期に優先して行うべき評価はどれか。

1.　知能検査
2.　深部腱反射
3.　神経伝導速度
4.　呼吸機能検査
5.　前腕回内外試験

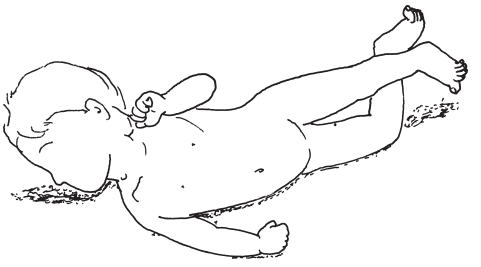
11　Down 症候群で乳児期前半にみられる特徴的な姿勢はどれか。



1



2



3

4

5

12　58 歳の男性。歩行時のふらつきを訴えて受診した。歩隔はやや広いが左右方向は安定しており、前後方向への振り子様の歩容がみられる。検査結果を表に示す。

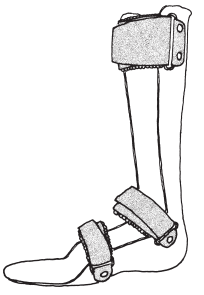
協調運動改善のための理学療法として適切なのはどれか。

注視方向性眼振	あ　り
構音障害	あ　り
鼻指鼻試験	測定異常あり
関節位置覚障害	な　し
Romberg 徴候	な　し

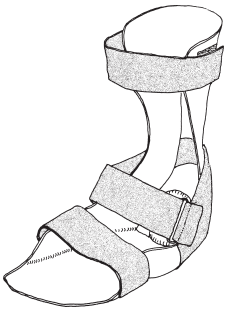
1.　自転車エルゴメーターによるペダリング運動
2.　rhythmic stabilization
3.　下肢筋群の持続的伸張
4.　Frenkel 体操
5.　Epley 法

13　65 歳の男性。被殻出血による右片麻痺。発症後 2 か月。意識レベル、認知機能および左下肢の機能に問題はない。右足関節の位置覚障害がみられる。起居動作は自立し、座位は安定している。現在、平行棒内での歩行練習中である。歩行中、右下肢の振り出しは可能であるが、踵接地がみられず、右下肢立脚中期に膝折れを認める。Brunnstrom 法ステージ右下肢Ⅲ、右下腿三頭筋の MAS〈modified Ashworth scale〉は 2 である。

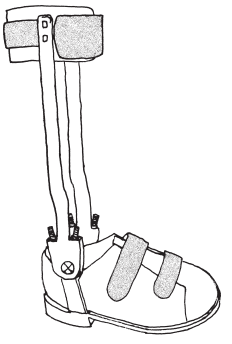
歩行に用いる最も適切な装具はどれか。



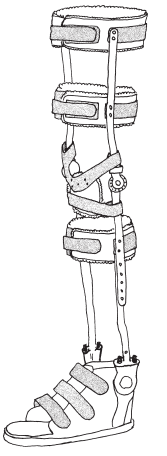
1



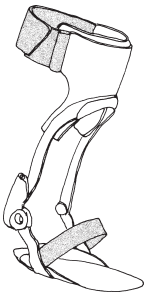
2



3



4



5

14　75 歳の男性。冠動脈バイパス術後。病棟での運動療法中に胸部不快感を生じた。そのときのモニター心電図(**別冊**No. **4**)を別に示す。

この患者にみられるのはどれか。

1.　心房細動
2.　洞性徐脈
3.　WPW 症候群
4.　心室性期外収縮
5.　Ⅱ度房室ブロック

別　冊
No.　**4**

15　70 歳の男性。脳梗塞による左片麻痺。線分抹消検査では紙面の左下方の線分抹消が行えず、車椅子駆動時には左側を壁にぶつけることがあった。

理学療法として適切なのはどれか。

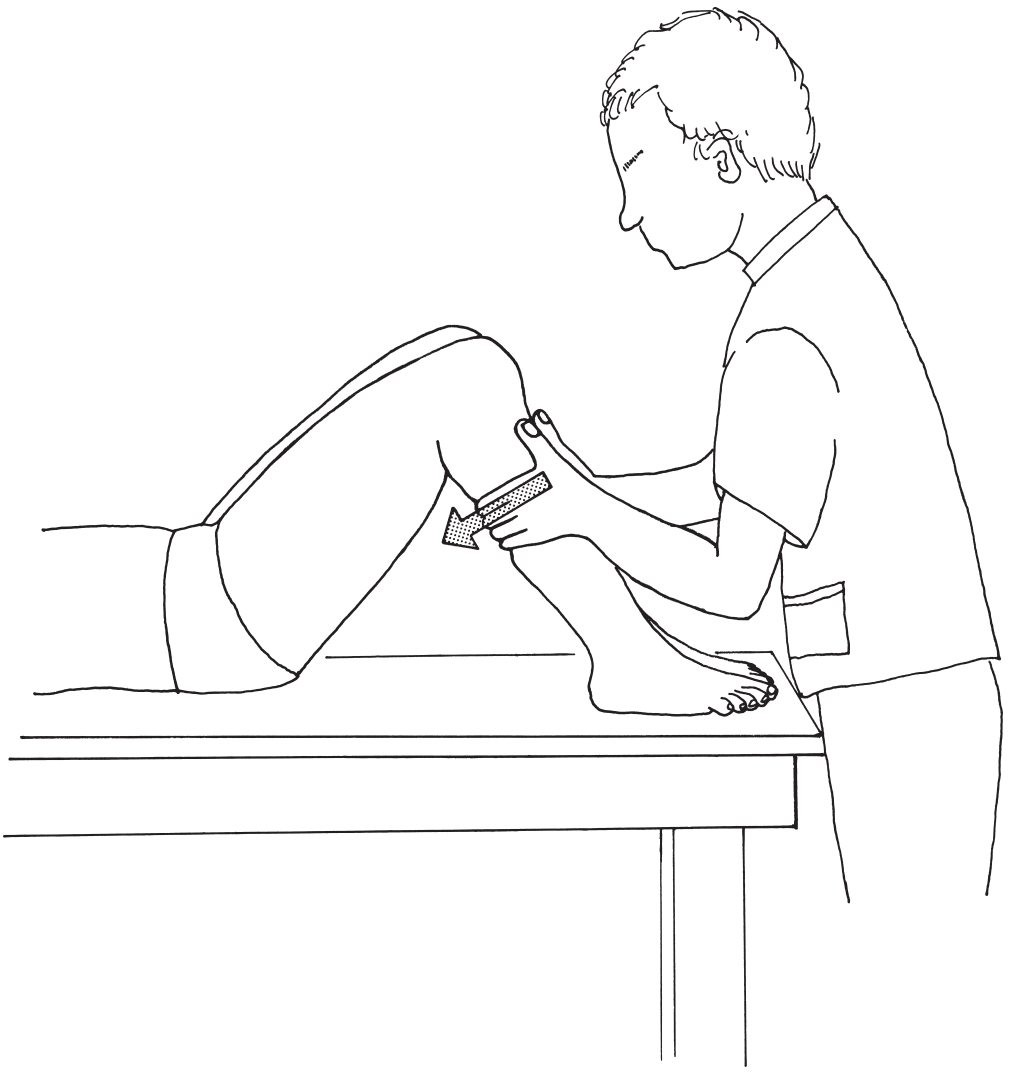
1.　右側から聴覚刺激を与える。
2.　右後頸部筋へ振動刺激を行う。
3.　頭部は正面を向いたまま体幹を右に回旋させる。
4.　手がかりを与えながら左側にある視覚標的を右へ移動させる。
5.　視野が右へ偏位するプリズム付眼鏡をかけてリーチ動作を行わせる。

次の文により 16、17 の問いに答えよ。

20 歳の女性。1 か月前に転倒し、疼痛は軽減したが膝関節の不安定感があり来院した。

16　実施した検査を図に示す。矢印は力を加えた方向を示す。

この検査で陽性となったとき、損傷されたのはどれか。



1.　外側側副靱帯
2.　後十字靱帯
3.　前十字靱帯
4.　腸脛靱帯
5.　内側側副靱帯

17　他に損傷がなかった場合、優先すべき治療はどれか。

1.　安静固定

2.　水中歩行練習

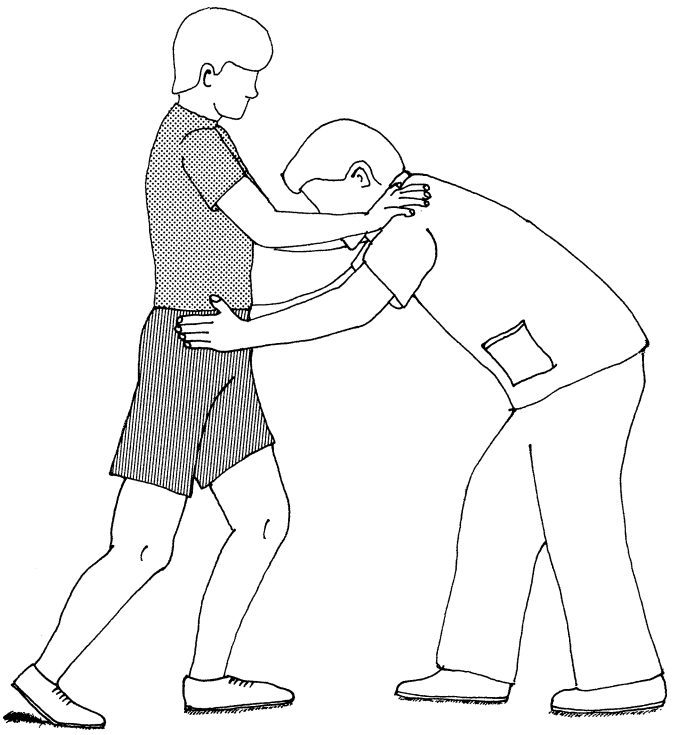
3.　大腿四頭筋の強化

4.　超音波療法

5.　ハムストリングスの強化

18　53 歳の女性。脳出血による右片麻痺で、発症後 6 週経過。Brunnstrom 法ステージは上肢、手指、下肢ともにⅣ。両足をそろえた位置から理学療法士を両上肢で押しながら図のように左足を一歩前に出す運動を行っている。

この目的として**誤っている**のはどれか。



1.　歩幅の拡大
2.　歩隔の拡大
3.　右側の殿筋強化
4.　右側の下腿三頭筋の強化
5.　右側の上肢肩甲帯の安定化

19　42 歳の男性。Guillain-Barré 症候群。発症後 3 日目。四肢体幹の重度な麻痺と呼吸筋麻痺のため人工呼吸器管理の状態である。

この時期に行う理学療法で適切なのはどれか。

1.　体位排痰
2.　痙縮の抑制
3.　体幹の漸増抵抗運動
4.　上下肢の高負荷の筋力増強運動
5.　上下肢の過伸張を伴うストレッチ

20　多職種で構成される病院内のカンファレンスに出席する際に、先輩から「この会議は、チームビルディングは成熟していて活発な議論がなされるが、コンフリクトマネジメントに課題がある」と助言を受けた。

このカンファレンスにおける対応として最も優先すべきなのはどれか。

1.　自分の意見を積極的に述べる。
2.　参加者と打ち解けられるようにする。
3.　意見が衝突した際に注意深く対応する。
4.　他者の意見を傾聴することを優先する。
5.　他者の意見に異を唱えずに議論を進める。

21　医療機関における患者の個人情報の取扱いで**誤っている**のはどれか。

1.　本人に開示する。
2.　漏えい防止対策を行う。
3.　正確かつ最新の内容に保つ。
4.　利用目的をできる限り特定する。
5.　医療機関の判断で利用目的を変更できる。

22　陽性尤度比の説明で正しいのはどれか。

1.　検査的中率と同義である。

2.　陰性尤度比を足すと１になる。

3.　「感度÷(１－特異度)」で計算できる。

4.　値が小さいほど臨床導入の妥当性が高い。

5.　実際の該当者のうち検査で陽性となる割合である。

23　立位で外乱による体の前方への傾きを足関節の運動で制御する際、外乱直後に最も活動する筋はどれか。

1.　腓腹筋

2.　大胸筋

3.　腹直筋

4.　前脛骨筋

5.　大腿四頭筋

24　運動による疲労時に筋内で増えるのはどれか。**2つ選べ**。

1.　ATP

2.　乳　酸

3.　グリコーゲン

4.　水素イオン(H^+)

5.　クレアチンリン酸

25　SF-36 で正しいのはどれか。

1.　効用値を算出する。

2.　４つの下位尺度がある。

3.　疾患特異的尺度である。

4.　アウトカムの指標となる。

5.　全般的に主観的満足感を評価する。

26　非圧痕性浮腫を生じる疾患はどれか。

1.　ネフローゼ症候群

2.　甲状腺機能低下症

3.　肝硬変

4.　心不全

5.　熱　傷

27　関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)において、基本軸または移動軸が橈骨であるのはどれか。**2 つ選べ**。

1.　肩外旋

2.　肩屈曲

3.　肘伸展

4.　手背屈

5.　前腕回内

28　Danielsらの徒手筋力テストで、検査する筋の段階と測定肢位の組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1.　腸腰筋の段階３ ―――――― 側臥位
2.　中殿筋の段階１ ―――――― 腹臥位
3.　大腿四頭筋の段階３ ――――― 座　位
4.　前脛骨筋の段階４ ―――――― 立　位
5.　下腿三頭筋の段階２ ――――― 背臥位

29　FIMについて正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1.　運動項目の１つに排尿管理がある。
2.　認知項目の１つに問題解決がある。
3.　認知項目の完全自立は42点となる。
4.　補装具を使用して動作が自立していれば完全自立とする。
5.　すべての評価項目が全介助の場合、評価点は０点となる。

30　骨盤帯付長下肢装具の適合判定で正しいのはどれか。

1.　骨盤帯は側方では腸骨稜と上前腸骨棘の間に設置する。
2.　下腿半月上縁は腓骨頭下端の直下である。
3.　股継手軸は前額面で小転子より２cm上方を通る。
4.　膝継手軸は矢状面で膝の前後径の１/２の点と後方１/３の点の中間点を通る。
5.　足継手軸は前額面で内果中央を通る。

31　肘関節脱臼で多いのはどれか。

1.　外　側
2.　後　方
3.　前　方
4.　内　側
5.　分　散

32　腰椎椎間板ヘルニアで陽性となるテストはどれか。

1.　Apley テスト
2.　Patrick テスト
3.　Thomas テスト
4.　McMurray テスト
5.　大腿神経伸張テスト

33　脳卒中発症後 2 週間以内に**生じにくい**合併症はどれか。

1.　意識障害
2.　消化管出血
3.　肩手症候群
4.　摂食嚥下障害
5.　深部静脈血栓症

34　筋萎縮性側索硬化症で**生じにくい**症状はどれか。

1.　舌萎縮
2.　構音障害
3.　上下肢麻痺
4.　眼球運動障害
5.　摂食嚥下障害

35　末梢神経損傷で予後が最も良いのはどれか。

1.　ニューロトメーシス〈neurotmesis〉
2.　アクソノトメーシス〈axonotmesis〉
3.　ニューラプラキシア〈neurapraxia〉
4.　神経根引き抜き損傷
5.　Waller 変性

36　水の物理的特性で水中運動療法における生理的な作用に**影響しない**のはどれか。

1.　水　圧
2.　浮　力
3.　抵　抗
4.　屈　折
5.　熱伝導率

37　持久力トレーニングの効果として正しいのはどれか。

1.　呼吸数の増加
2.　１回拍出量の減少
3.　安静時心拍数の減少
4.　末梢血管抵抗の増加
5.　最大酸素摂取量の減少

38　慢性非特異的腰痛の理学療法介入方法について、理学療法診療ガイドラインで強く推奨されているのはどれか。

1.　超音波
2.　TENS
3.　腰椎牽引
4.　寒冷療法
5.　認知行動療法

39　慢性閉塞性肺疾患の ADL 動作で最も息切れが生じやすいのはどれか。

1.　食　事
2.　排　尿
3.　歯磨き
4.　洗　髪
5.　ズボンの着脱

40　転位のない大腿骨転子部骨折に対する観血的整復固定術後の理学療法として優先度の**低い**のはどれか。

1.　早期からの歩行練習
2.　脱臼予防肢位の指導
3.　早期からの ROM 練習
4.　大腿四頭筋の等尺性運動
5.　足関節の自動的底背屈運動

41　腰椎分離症で分離するのはどれか。

1.　横突起
2.　棘突起
3.　椎間板
4.　椎　弓
5.　椎　体

42　Duchenne 型筋ジストロフィーについて**誤っている**のはどれか。

1.　小学校 3 ～ 4 年では書字動作は保たれる。
2.　小学校高学年ではトイレ動作に介助が必要である。
3.　小学校高学年での歩行消失後は四つ這い生活を積極的に指導する。
4.　小学校高学年から中学校では美術の時間に補助具の工夫が必要である。
5.　中学校から高校ではパソコンの入力装置に工夫が必要である。

43　心不全のない急性心筋梗塞患者の退院後運動指導として適切なのはどれか。

1.　１日 10 分程度のジョギング
2.　等尺性収縮による筋力増強
3.　心拍数を増加させない運動
4.　Borg 指数 16 レベルの運動
5.　週 3 日以上の有酸素運動

44　白杖を使用している視覚障害者の介助について正しいのはどれか。**2 つ選べ**。

1.　平地歩行時は、介助者の手を把持する。
2.　バスに乗るときは、介助者が先に乗る。
3.　階段を下りるときは、介助者が一段先に下りる。
4.　混雑した電車に乗るときは、介助者が後から乗る。
5.　手前に引いて出入りするドアでは、介助者が先に入る。

45　生活習慣病に**含まれない**のはどれか。

1.　高血圧症
2.　脂質異常症
3.　糖尿病
4.　脳卒中
5.　肺　炎

46　ICF の脳卒中 Brief core set に含まれるのはどれか。

1.　歩　行

2.　痛みの感覚

3.　運動耐容能

4.　関節の可動性

5.　レクリエーションとレジャー

47　介護保険制度について**誤っている**のはどれか。

1.　在宅介護を推進する。

2.　健康の保持や増進に努力する。

3.　20 歳以上の全国民が加入する。

4.　高齢者の自己決定権を尊重する。

5.　ノーマライゼーションを実現する。

48　端座位で一側の股関節を屈曲する際に抵抗をかけたところ Strümpell 現象が出現し、歩行動作の練習に役立てようとした。

観察された動きはどれか。

1.　股関節外旋

2.　膝関節屈曲

3.　膝関節伸展

4.　足関節背屈

5.　足関節底屈

49　胸髄損傷者の褥瘡予防で正しいのはどれか。

1.　30 度側臥位にする。

2.　体位変換は 6 時間ごとに行う。

3.　褥瘡の好発部位に円座を用いる。

4.　ベッドアップは 80 度以上にする。

5.　褥瘡の好発部位をマッサージする。

50　栄養状態の評価として有用性が**低い**のはどれか。

1.　血小板数

2.　下腿周囲径

3.　体重減少率

4.　Body Mass Index

5.　血清アルブミン値

51　上腕骨小結節に付着する筋はどれか。

1.　棘下筋
2.　棘上筋
3.　肩甲下筋
4.　小円筋
5.　上腕二頭筋

52　皮下組織の直下に筋腹を触知する筋はどれか。

1.　棘上筋
2.　方形回内筋
3.　小殿筋
4.　中間広筋
5.　長腓骨筋

53　腕神経叢の後神経束から分岐する神経はどれか。

1.　腋窩神経
2.　筋皮神経
3.　尺骨神経
4.　正中神経
5.　長胸神経

54　舌下神経について正しいのはどれか。

1.　舌筋を支配する。

2.　両側支配である。

3.　神経核は橋にある。

4.　脳の背側から出る。

5.　味覚の求心路である。

55　脛骨と腓骨の両方に付着する筋はどれか。

1.　大腿二頭筋

2.　半腱様筋

3.　前脛骨筋

4.　後脛骨筋

5.　短腓骨筋

56　解剖学的構造のうち、白質に分類されるのはどれか。

1.　視　床

2.　脳　梁

3.　被　殻

4.　淡蒼球

5.　脊髄前角

57　脳脊髄液の流路において、第三脳室と第四脳室の間に位置するのはどれか。

1.　Luschka 孔
2.　Magendie 孔
3.　Monro 孔
4.　中脳水道
5.　脈絡叢

58　胃の解剖について正しいのはどれか。

1.　胃底は胃の下方をいう。
2.　胃の左縁を小弯という。
3.　食道と胃の境に噴門が位置する。
4.　大弯は肝胃間膜によって肝臓と結合している。
5.　胃酸を分泌する腺は幽門前庭に多くみられる。

59　腎臓の解剖について正しいのはどれか。

1.　糸球体は腎髄質に位置する。
2.　輸出細動脈は集合管につながる。
3.　ネフロンは糸球体と尿細管からなる。
4.　輸入細動脈は Henle 係蹄につながる。
5.　腎乳頭は Bowman 嚢に覆われている。

60　細胞分裂の開始に関わるのはどれか。

1.　Golgi〈ゴルジ〉装置

2.　中心小体

3.　ミトコンドリア

4.　リソソーム

5.　リボソーム

61　1本の神経線維を電気刺激した場合の興奮伝導の説明で正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1.　興奮は一方向に伝わる。

2.　興奮は減衰せずに伝わる。

3.　興奮は太い線維ほど速く伝わる。

4.　興奮は並走する別の線維に伝わる。

5.　有髄線維では興奮が髄鞘に伝わる。

62　四肢からの感覚神経伝導路について正しいのはどれか。

1.　触覚の線維は中脳で交叉する。

2.　圧覚の線維は脊髄視床路を通る。

3.　温度覚の線維は脊髄節で交叉する。

4.　一次ニューロンの細胞体は後角にある。

5.　痛覚の伝導路は延髄で二次ニューロンになる。

63　運動時の循環反応で**誤っている**のはどれか。

1.　脳血流量は減少する。
2.　腎血流量は減少する。
3.　静脈還流量は増加する。
4.　分時心拍出量は増加する。
5.　骨格筋の血流量は増加する。

64　交感神経の作用はどれか。

1.　瞳孔の縮小
2.　膀胱の収縮
3.　心拍数の減少
4.　気管支の拡張
5.　膵液の分泌促進

65　右心不全の症候として正しいのはどれか。**2 つ選べ**。

1.　肺水腫
2.　肝脾腫
3.　起坐呼吸
4.　下腿浮腫
5.　チアノーゼ

66　消化酵素について正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1.　αアミラーゼはマルトースをブドウ糖に分解する。
2.　トリプシンはトリペプチドをアミノ酸に分解する。
3.　ペプシンは蛋白質をポリペプチドに分解する。
4.　マルターゼはデンプンをデキストリンに分解する。
5.　リパーゼは脂肪を脂肪酸とグリセリンに分解する。

67　排便機構について正しいのはどれか。

1.　外肛門括約筋は平滑筋である。
2.　結腸壁が伸展されることで便意が生じる。
3.　内肛門括約筋を収縮させることで排便する。
4.　排便中枢は大脳皮質からの抑制を受けている。
5.　食物で胃が伸展されると大腸の蠕動運動が抑制される。

68　分娩後の乳汁分泌に作用するホルモンはどれか。

1.　ドパミン
2.　エストロゲン
3.　プロラクチン
4.　プロゲステロン
5.　ゴナドトロピン

69　代謝について正しいのはどれか。

1.　エネルギー代謝率〈RMR〉は基礎代謝量を基準とした運動強度である。
2.　基礎代謝量〈BM〉は同性で同年齢ならば体重に比例する。
3.　呼吸商〈RQ〉は摂取する栄養素によらず一定である。
4.　代謝当量〈MET〉は安静臥位時の代謝量を基準とした運動強度である。
5.　特異動的作用〈SDA〉とは食物摂取後の消費エネルギーの減少である。

70　肩関節の運動とそれに作用する筋の組合せで正しいのはどれか。

1.　屈　曲 ――― 棘上筋
2.　伸　展 ――― 大円筋
3.　外　転 ――― 棘下筋
4.　外　旋 ――― 肩甲下筋
5.　内　旋 ――― 小円筋

71　手指の運動とそれに作用する筋の組合せで**誤っている**のはどれか。

1.　母指 MP 関節伸展 ――― 短母指伸筋
2.　小指 MP 関節屈曲 ――― 短小指屈筋
3.　環指 MP 関節外転 ――― 背側骨間筋
4.　小指 MP 関節内転 ――― 掌側骨間筋
5.　中指 MP 関節伸展 ――― 虫様筋

72　膝関節半月板について正しいのはどれか。

1.　外縁は内縁より薄い。

2.　外側半月板は外側側副靱帯に付着しない。

3.　大腿骨と膝蓋骨の適合性を高める。

4.　内側半月板は外側半月板より小さい。

5.　膝関節伸展時には後方に移動する。

73　足部の内がえしに作用する筋はどれか。**2つ選べ**。

1.　後脛骨筋

2.　前脛骨筋

3.　第3腓骨筋

4.　短腓骨筋

5.　長指伸筋

74　成人の安静開脚立位で正しいのはどれか。

1.　頭部は静止している。

2.　腓腹筋は持続的に活動している。

3.　腹直筋は持続的に活動している。

4.　大腿直筋は持続的に活動している。

5.　重心動揺は左右より前後方向が小さい。

75　疾患と病因・病理学的変化の組合せで正しいのはどれか。

1.　Creutzfeldt Jakob 病 ―――― 感染性疾患
2.　Parkinson 病 ―――――――― 脱髄疾患
3.　肝性脳症 ―――――――――― 神経変性疾患
4.　正常圧水頭症 ―――――――― 血行障害
5.　多発性硬化症 ―――――――― 腫瘍性疾患

76　突然の右不全片麻痺を呈して搬送された患者の発症後 6 時間の頭部 CT（**別冊**No. **5**）を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

1.　視床出血
2.　被殻出血
3.　皮質下梗塞
4.　くも膜下出血
5.　慢性硬膜下血腫

別　冊
No.　**5**

77　ワルファリンの作用を減弱させるのはどれか。

1.　ビタミン A
2.　ビタミン B_6
3.　ビタミン B_{12}
4.　ビタミン C
5.　ビタミン K

78　正常な肉芽の特徴はどれか。

1.　感染しやすい。

2.　乾燥している。

3.　出血しやすい。

4.　白色である。

5.　分泌物が多い。

79　意識することなく再生される記憶はどれか。

1.　即時記憶

2.　意味記憶

3.　近時記憶

4.　手続き記憶

5.　エピソード記憶

80　Erikson による発達段階で老年期に獲得すべき課題はどれか。

1.　親　密

2.　統　合

3.　勤　勉

4.　自　律

5.　同一性

81　模擬場面でのリハーサルを技法として用いるのはどれか。

1.　内観療法

2.　箱庭療法

3.　森田療法

4.　認知行動療法

5.　支持的精神療法

82　脊髄損傷の自律神経過反射でみられるのはどれか。**2 つ選べ**。

1.　頻　脈

2.　高血圧

3.　低血糖

4.　顔面紅潮

5.　損傷レベルより下の発汗

83　老研式活動能力指標の質問項目のうち、手段的 ADL に該当するのはどれか。

1.　「本や雑誌を読んでいますか」

2.　「年金などの書類が書けますか」

3.　「バスや電車を使って１人で外出できますか」

4.　「家族や友だちの相談にのることがありますか」

5.　「健康についての記事や番組に関心がありますか」

84　摂食嚥下障害への対応で正しいのはどれか。

1.　飲水にはぬるま湯を用いる。

2.　咽頭期障害では頭頸部伸展姿勢で嚥下する。

3.　口腔期障害に対しては高粘度の食物を用いる。

4.　先行期障害に対して食事のペースを指導する。

5.　鼻咽腔閉鎖不全に対してはShaker法を用いる。

85　上腕骨顆上骨折で正しいのはどれか。

1.　老年期に多い。

2.　原則として手術を行う。

3.　外反肘を生じることが多い。

4.　前腕の循環不全を生じやすい。

5.　肘関節屈曲位での受傷が多い。

86　特発性大腿骨頭壊死症について正しいのはどれか。

1.　小児に多い。

2.　手術適応例は少ない。

3.　両側性病変は稀である。

4.　ステロイド薬使用者に多い。

5.　股関節内外旋可動域は保たれる。

87　家族性が孤発性よりも多いのはどれか。

1.　Parkinson 病
2.　多系統萎縮症
3.　Huntington 病
4.　Lewy 小体型認知症
5.　筋萎縮性側索硬化症

88　重症筋無力症について正しいのはどれか。

1.　起床時に症状が強い。
2.　悪性腫瘍の合併が多い。
3.　自己免疫性疾患である。
4.　女性よりも男性に多い。
5.　40 歳以前の発症は稀である。

89　てんかんについて正しいのはどれか。

1.　半数以上が遺伝性である。
2.　睡眠不足は発作の誘因である。
3.　年齢とともに発症率が減少する。
4.　成人では症候性よりも特発性が多い。
5.　発作の持続時間は後遺障害と相関しない。

90　眼疾患とその病態の組合せで正しいのはどれか。

1.　白内障 ―――――――― 硝子体の混濁
2.　麦粒腫 ―――――――― 眼瞼の悪性腫瘍
3.　Behçet 病 ―――――――― ぶどう膜の炎症
4.　流行性角結膜炎 ―――― 色素上皮の剝離
5.　緑内障 ―――――――― 眼圧の低下

91　10 か月の正常児でみられるのはどれか。

1.　Moro 反射
2.　手の把握反応
3.　緊張性迷路反射
4.　パラシュート反応
5.　非対称性緊張性頸反射

92　高齢者にみられる病態のうち、低栄養の関与が**低い**のはどれか。

1.　貧　血
2.　褥　瘡
3.　大腿骨骨折
4.　サルコペニア
5.　虚血性心疾患

93　2型糖尿病の運動療法について**誤っている**のはどれか。

1.　有酸素運動が用いられる。
2.　インスリン感受性を上昇させる。
3.　食事療法との併用が基本となる。
4.　尿中ケトン体が陽性の場合においても推奨される。
5.　実施にあたってはインスリンが十分に補充されている必要がある。

94　血友病について正しいのはどれか。

1.　脾腫がみられる。
2.　血小板数が減少する。
3.　点状紫斑がみられる。
4.　膝に関節症をきたす。
5.　自己免疫性疾患である。

95　リンパ浮腫について正しいのはどれか。

1.　腹水を伴う。
2.　利尿薬で治療する。
3.　蜂窩織炎になりやすい。
4.　肺塞栓症の原因の１つである。
5.　皮膚が線維化を起こすことは稀である。

96　精神遅滞を生じる疾患のうち、先天性代謝異常が原因であるのはどれか。

1.　Down 症候群
2.　結節性硬化症
3.　神経線維腫症
4.　Turner 症候群
5.　フェニルケトン尿症

97　疾患と病変の組合せで正しいのはどれか。

1.　Lewy 小体型認知症 ―――― 白質の病変
2.　Alzheimer 型認知症 ―――― アミロイドの沈着
3.　血管性認知症 ―――― 黒質の神経細胞脱落
4.　大脳皮質基底核変性症 ―――― 運動ニューロン病変
5.　前頭側頭型認知症 ―――― 大脳皮質の腫大神経細胞

98　境界性パーソナリティ障害に**みられない**のはどれか。

1.　不安定な感情
2.　孤立への欲求
3.　持続的な空虚感
4.　不明瞭な自己像
5.　繰り返す自傷行為

99　てんかんについて正しいのはどれか。**2つ選べ**。

1.　単純部分発作は意識障害がみられる。

2.　欠神発作は過換気によって誘発される。

3.　特発性てんかんは脳の器質的病変が特定できる。

4.　複雑部分発作は側頭葉てんかんに多くみられる。

5.　全般発作は発作開始時にてんかん放電が大脳半球の片側にとどまっている。

100　疾患と治療の組合せで正しいのはどれか。

1.　身体化障害 ―――――――――――― 系統的脱感作法

2.　強迫性障害 ―――――――――――― 曝露反応妨害法

3.　PTSD〈外傷後ストレス障害〉 ――――― フラッディング

4.　心気障害 ―――――――――――― 持続エクスポージャー法

5.　解離性健忘 ―――――――――――― バイオフィードバック法